

# 1. 評価結果概要表

評価確定日 平成19年8月28日

## 【評価実施概要】

|               |                                   |
|---------------|-----------------------------------|
| 事業所番号         | 2275500532                        |
| 法人名           | アサヒサンクリーン株式会社                     |
| 事業所名          | アサヒサンクリーングループホーム 吉田               |
| 所在地<br>(電話番号) | 静岡県榛原郡吉田町神戸2701-2<br>0548-33-3301 |
| 評価機関名         | セリオコーポレーション有限公司                   |
| 所在地           | 静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号                 |
| 訪問調査日         | 平成19年7月5日                         |

## 【情報提供票より】(平成19年6月10日事業所記入)

### (1) 組織概要

|       |                  |        |                      |
|-------|------------------|--------|----------------------|
| 開設年月日 | 平成 14 年 6 月 16 日 |        |                      |
| ユニット数 | 1 ユニット           | 利用定員数計 | 9 人                  |
| 職員数   | 7 人              | 常勤     | 7 人, 非常勤 0 人, 常勤換算7人 |

### (2) 建物概要

|      |           |    |
|------|-----------|----|
| 建物形態 | 単独        | 改築 |
| 建物構造 | 木造        |    |
|      | 1階建ての1階部分 |    |

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

|                     |               |                |          |
|---------------------|---------------|----------------|----------|
| 家賃(平均月額)            | 51,000 円      | その他の経費(月額)     | 21,000 円 |
| 敷金                  | 無             |                |          |
| 保証金の有無<br>(入居一時金含む) | 有 ( 200,000円) | 有りの場合<br>償却の有無 | 有        |
| 食材料費                | 朝食            | 280 円          | 昼食 600 円 |
|                     | 夕食            | 500 円          | おやつ 0 円  |
|                     | または1日当たり 円    |                |          |

### (4) 利用者の概要(平成19年6月10日現在)

|       |           |      |      |    |      |
|-------|-----------|------|------|----|------|
| 利用者人数 | 8 名       | 男性   | 0 名  | 女性 | 8 名  |
| 要介護1  | 3 名       | 要介護2 | 3 名  |    |      |
| 要介護3  | 2 名       | 要介護4 | 名    |    |      |
| 要介護5  | 名         | 要支援2 | 名    |    |      |
| 年齢    | 平均 86.6 歳 | 最低   | 71 歳 | 最高 | 99 歳 |

### (5) 協力医療機関

|         |           |
|---------|-----------|
| 協力医療機関名 | 組合 榛原総合病院 |
|---------|-----------|

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

田園に囲まれ、緑濃い丘陵も望める環境の中にあり、「利用者の人生の延長線上にある、家庭的で自然な家」を管理者、職員、利用者、家族が渾然となつて作り上げている。そこでの楽しみは、利用者職員と一緒に準備し調理して、みんなで楽しむ食事の時間であり、檜を使ったこだわりの浴槽での入浴である。歌や会話や笑い声が絶え間なく聞こえ、利用者、職員の家族的な雰囲気醸し出されている。民生委員、役場担当者、家族等で構成する運営推進会議を定期的開催し、地域との関係作り等を中心とした意見交換を行っており、ホームと地域との交流も、より一層活発になるものと期待できる。

## 【重点項目への取り組み状況】

|       |   |
|-------|---|
| 重点項目① | <p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回、ケアサービス分野では服薬の支援等3点の改善指摘があったが、職員合意の下、何れも適切に改善されている。運営理念の分野では、契約書等で利用者の権利、義務が明確になっていないとの指摘であるが、契約書、重要事項説明書等利用案内時の説明文書全体の見直しにより、課題の改善を行うこととして、現在取り組み中である。</p>  |
|       | <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>取り組みの事実等自己評価票は管理者がパソコンで作成し、それをたたき台として、職員全員で内容の検討を行った。ホームの強み、特徴や課題などが認識され、地域との支えあい等12項目を取り組んでいきたいとしており、特徴をさらに伸ばしたホーム作りが期待できる。</p>  |
| 重点項目② | <p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>平成18年7月から2ヶ月に1回定期開催し、当初の会議では、介護保険等福祉事業の基本についての情報提供を始め、グループホームの役割や現状の説明をした。最近では、地域密着型サービスの創設に伴い併設された、小規模多機能型居宅介護事業の現状報告や、地域との交流の実態等が主な議題であった。会議を重ねる毎に事業への理解が深まっており、地域での連携が期待できるので、今後の地域交流が楽しみである。</p> |
| 重点項目③ | <p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の訪問回数も多く、職員とは話しやすい馴染みの関係にある。家族とホームとの個別面談を毎月1回行い、利用者の日常の様子を細かに伝え、家族からの不安や要望を聞く仕組みがある。家族会も行われており、利用者家族のふれあいや家族同士の交流が実現し、親密感、信頼感が高まった。運営推進会議にも毎回家族代表が出席しており、家族の意見等を聞く機会として運営に反映させている。</p>                  |
| 重点項目④ | <p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町の祭りや運動会等のイベントの他、地域での介護予防の行事等に参加している。今年からは隣接するデイサービスセンターの施設を利用して、介護相談会も行っており、町内にポスターを掲出する等積極的に周知している。ホームの防災訓練や利用者の見守り等では、今後地域との連携を深めることが望ましく、運営推進会議等で検討されるよう期待している。</p>  |

## 2. 評価結果 (詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

| 外部                    | 自己 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)  |
|-----------------------|----|---|---|------|---|
| <b>I. 理念に基づく運営</b>    |    |   |   |      |   |
| 1. 理念と共有              |    |   |   |      |   |
| 1                     | 1  | ○地域密着型サービスとしての理念<br>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている                  | 理念として「何処よりも家庭的で帰りたい場所」を掲げ、その人らしく生活することへの支援として「誰もが無理なく自然体でいられる施設」「当たり前で安心で居られる施設」を目指している。しかし、現時点では地域密着型サービスが反映された理念策定には至っていない。     | ○    | 認知症対応型サービスの理念に加え、地域密着型サービスが目指す利用者の地域生活継続と、事業所と地域の関係強化を盛り込んだ理念を検討することが望まれる。                            |
| 2                     | 2  | ○理念の共有と日々の取り組み<br>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる                                     | 現在の理念や方針に、管理者は目的意識を持って運営に当たっており、職員も十分に理解し、日々の介護に活かしている。   | ○    | 家庭的雰囲気で開催されているホームの強みに加え、地域密着型サービスとしての理念に対しても、同様の取り組みが期待される。   |
| 2. 地域との支えあい           |    |   |   |      |   |
| 3                     | 5  | ○地域とのつきあい<br>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている               | 自治会や老人会等が行う地域の行事(祭り・運動会・文化祭等)に参加をしている。近隣の人達とも交流を図り、自治会を通して地域住民の一員として、地元との結びつきを深める努力をしている。また介護相談会を開催し、認知症ケアのノウハウを地域に提供する取り組みをしている。 | ○    | 側溝の一斉清掃等地域行事への参加や、ホーム行事への参加を、自治会に呼びかける活動が予定される等、交流の場が広がって来ている。今後は防災訓練や利用者の見守り等で、地域との連携が深められることが期待される。 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 |    |   |   |      |   |
| 4                     | 7  | ○評価の意義の理解と活用<br>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる                 | 評価のねらいを考え、自己評価では職員の意見も取り上げ、出された課題に対して全員で話し合い、改善に取り組んでいる。  |      |   |
| 5                     | 8  | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議では、事業所の取り組み内容や、具体的な改善課題、外部評価等について話し合った。立場の違う人同士で情報を交換し、参加メンバーからの「生きた意見」を得る場として積極的に活用している。                                   |      |   |

| 外部              | 自己 | 項目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)              |
|-----------------|----|--|--|------|---|
| 6               | 9  | ○市町村との連携<br>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる                               | 役所に出向いた折には、担当者に事業所の考え方、運営、及び現状等について伝えている。直面している課題の解決には随時協議を行う等連携がされている。  |      |   |
| 4. 理念を実践するための体制 |    |  |  |      |   |
| 7               | 14 | ○家族等への報告<br>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている                              | 月に一度家族との面会、面談の機会を設け、利用者の健康状態や暮らしぶり、金銭管理の状況等を業務日誌や介護記録等によりきめ細かに報告している。顔の見える関係を活かして、家族の要望や意見の把握、相談を行っており、家族にも利用者の生活がよく理解されている。 |      |   |
| 8               | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映<br>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている                                | 面会時家族には誠意と笑顔で応対し、素直な要望や意見が聞かれる雰囲気づくりをしている。出された意見や要望は、全体で話し合い、運営や介護計画に反映させている。また、年に一度家族会を行っており、家族同士の連携が生まれて来ている。              |      |   |
| 9               | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮<br>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 管理者の運営努力により、職員の定着率が良くなり異動もほとんどない。利用者は馴染みの職員と穏やかな日常生活を送っている。  |      |   |
| 5. 人材の育成と支援     |    |  |  |      |   |
| 10              | 19 | ○職員を育てる取り組み<br>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている              | 職員育成の重要性を認識し、社内研修や外部研修に参加している。カンファレンスで研修内容を全職員に報告し、質の向上に努めている。   |      |   |
| 11              | 20 | ○同業者との交流を通じた向上<br>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている    | 市の事業者連絡会議に参加し、同業者との連携を図っている。他の事業所の管理者とは、電話で運営上の相談や意見交換を行い、問題の解決や質の向上につなげている。   | ○    | 同業者との交流を一步進め、他の事業所の見学や勉強会等の交流が、実現されることを期待したい。 |

| 外部                                 | 自己 | 項目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|--|--|------|----------------------------------|
| <b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>        |    |  |  |      |                                  |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応          |    |  |  |      |                                  |
| 12                                 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用<br>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 本人及び家族の思いや日常生活の状況等の把握をし、ホームのサービス内容の説明を行って、納得される相談をしている。本人と家族の見学、一週間のお試し期間を経て、徐々に馴染みながら、安心して利用を開始できるよう配慮している。 |      |                                  |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援          |    |  |  |      |                                  |
| 13                                 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている                      | 職員は、利用者と共に過ごす時間を多くして、のんびり会話を楽しみながら、人生の先輩である利用者の「おばあちゃんの知恵袋」を引き出し、生活の技や文化等を教えて頂く場面づくりを心がけている。                 |      |                                  |
| <b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |    |  |  |      |                                  |
| 1. 一人ひとりの把握                        |    |  |  |      |                                  |
| 14                                 | 33 | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している   | 職員は利用者との日常生活の関わりの中で、希望や意向を聞きだす努力をしている。利用者の思いを尊重し、その人らしく暮らし続ける支援に取り組んでいる。                                     |      |                                  |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し     |    |  |  |      |                                  |
| 15                                 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している        | 本人や家族の思い、希望等を聞き取り、日々の申し送りや職員全員によるケアカンファレンスの中で、職員の気づきを反映させて課題を話し合い、利用者本位の介護計画を作成している。                         |      |                                  |
| 16                                 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し<br>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している    | 期間にとらわれず、日常生活の中で問題点や状況変化を把握し、実情に応じたケアにつながるよう介護計画を見直している。見直しの必要等状況の変化が生じた場合は、随時本人、家族、関係者と話し合い、臨機応変に対応している。    |      |                                  |

| 外部                                 | 自己 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|---|--|------|-----------------------------------|
| <b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>           |    |   |  |      |                                   |
| 17                                 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援<br>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている                           | 理念である「安心していられるホーム」の実現には、多機能性を活かして、どんな状況にも柔軟に対応していくことが大事であるとの認識で支援している。天候や利用者の体調、希望を判断して、計画にない外出を時々行い、ドライブや花見を楽しんでおり、利用者や家族に喜ばれている。 |      |                                   |
| <b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b> |    |   |  |      |                                   |
| 18                                 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援<br>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している             | 事業所の協力医療機関(榛原総合病院)の他、本人や家族の希望により、利用前からの馴染みのかかりつけ医や、希望する医療機関に、家族の付き添いで受診することもできる。また、体調の変化があった場合等には、併設施設の看護師による応急措置が取られる受診支援がある。     |      |                                   |
| 19                                 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有<br>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 利用者の状態は安定しており、重度化の対応等については、当面の課題になっていないが、今後の状況変化に備えた取り組みを検討中である。   |      |                                   |
| <b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>   |    |   |  |      |                                   |
| <b>1. その人らしい暮らしの支援</b>             |    |   |  |      |                                   |
| <b>(1)一人ひとりの尊重</b>                 |    |   |  |      |                                   |
| 20                                 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底<br>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない                           | 利用者とは家族的な心情で対応しているが、個人としての尊厳やプライバシーの確保には徹底した配慮をしている。個人情報に関しては施錠できる所に保管し、プライバシー保護に努めている。  |      |                                   |
| 21                                 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している           | 職員の都合を優先させることなく、利用者のペースや暮らしぶりに合った生活支援を実践している。食事や入浴など利用者の意向や希望を大事にして、「無理なく自然体でいられる施設」を目指した介護に取り組んでいる。                               |      |                                   |

| 外部                                   | 自己 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)   |
|--------------------------------------|----|---|---|------|--|
| <b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b> |    |   |   |      |  |
| 22                                   | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている    | 「美味しい物を楽しく食べる」ことに配慮し、冷凍食品や出来合いの物を使わずに、ホームで取れた野菜や旬の食材を用い、みんなで協力して調理している。利用者の持てる力が活かされて、生き生きと手伝う姿が見られる。和気合い合いとした雰囲気の中で食事を楽しむサポートがされている。 |      |  |
| 23                                   | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援<br>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している   | 利用者の習慣や希望により、毎日でも檜の風呂へ入ることができる。職員は利用者のペースやその日の体調に合わせて、本人と相談しながら入浴介助を行っている。業務日誌に入浴時間及び洗髪の記録があり、細やかな支援がされている。                           |      |  |
| <b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b> |    |   |   |      |  |
| 24                                   | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 職員は利用者の得意なことや出来ることを把握し、一人ひとりに合った役割や楽しみごとを支援している。食事の支度や畑仕事、フラワーアレンジメント、ぬり絵等利用者それぞれの力量に合わせた活動をしている。                                     |      |  |
| 25                                   | 61 | ○日常的な外出支援<br>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している                   | 毎日の散歩の他、季節の花見やピクニック・ドライブ・外食など、利用者の希望や健康状態、天候に配慮しながら、様々な工夫を凝らして外出機会を創り出している。   |      |  |
| <b>(4) 安心と安全を支える支援</b>               |    |   |   |      |  |
| 26                                   | 66 | ○鍵をかけないケアの実践<br>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる          | 職員の見守りにより利用者は自由に外出できる。畑作業などで一人で外出する利用者には、居場所確認や声かけをして、安全に配慮しながら自由な生活が出来るよう支援している。   |      |  |
| 27                                   | 71 | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている      | 昨年度に1回、利用者と共に避難、救出を想定した自主防災訓練を行った。  | ○    | 消防署と連携した避難訓練を行い、避難経路の確認など、昼夜を問わず確実に避難誘導が出来る取り組みが望まれる。また、運営推進会議で、地域住民の参加、協力が得られるよう災害時の協力依頼の働きかけを検討されたい。 |

| 外部                        | 自己 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|----|---|--|------|-----------------------------------|
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 |    |   |  |      |                                   |
| 28                        | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている                                   | 内部研修を行い、職員は栄養摂取や水分確保の知識を持ち、十分に認識している。食事量・水分量を毎回チェック表に記入し、一人ひとりの総摂取量を把握して、利用者の健康状態に合わせたケアをしている。                                 |      |                                   |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり   |    |   |  |      |                                   |
| (1)居心地のよい環境づくり            |    |   |  |      |                                   |
| 29                        | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 民家の良さをそのまま活かし、グループホームに改造した和風平屋建てで、明るく落ち着いた家庭的な造りになっている。トイレ・浴室等利用者が安心して自立した生活が送れるよう配慮され、中庭に面した居間・食堂では、くつろいだ様子で会話を楽しむ利用者の姿が見られた。 |      |                                   |
| 30                        | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている                   | 居室は十分な広さが確保され、自宅から家具・日用品等使い慣れた馴染みの物が持ち込まれ、居心地よく生活できるよう配慮されている。利用者は、家族の写真や自分でアレンジした花等を飾り、その人らしい居室づくりをしている。                      |      |                                   |